

令和6年度 学校関係者評価書

学校名		北海道静内高等学校		組織名	学校評議員会
				評 価 者	
				・学校評議員5名 (うち保護者1名)	

1 本年度の重点目標

1 基本的生活習慣を確立し、思いやりのある心豊かな人格の育成を図る。

2 自らを律し、学習や部活動等に意欲的に取り組み、目標に向かって努力を惜しまない態度を育む。

3 地域との連携に努め、生徒一人一人を大切にしたいきめ細かな指導を継続し、次代を担う有為な人材を育成する。

重点目標の適切さ	適切である(静高プライド) 地域の次代を担う人材育成の目標としてはとても良い
----------	---

2 自己評価結果

評価項目	指標・結果等	自己評価	今後の改善の方策	自己評価の結果の内容の適切さ	今後の改善方策の適切さ
学習指導	学習目標の明確化及び家庭学習の定着を図り、個に応じた指導を充実させる。 【指標】 家庭学習時間の平均値が普通クラス 60分以上 特進クラス120分以上 【結果】12月2日実施 1年次 2年次 3年次 普通クラス 60分以上 53.8%(43.4) 33.9%(30.6) 31.9%(47.5) 特進クラス120分以上 91.4%(94.7) 92.9%(76.3) 89.5%(85.8)	B	学習時間が増加傾向に転じたが、特に2年次普通クラスの家庭学習が定着していない。 家庭学習の意義に係わる啓発活動とともに、生徒への還元方法を具体的に検討し実行する。(授業外学習時間へ取り組む為の時間設定など)	B A A B A	B A A A A
評価者の意見等	家庭での時間の使い方を自分自身が強く理解すること。 授業外学習(塾)や課外活動の時間を調査し、何をがんばっているか学校で把握し、進路指導に役立ててはいかがか。 家庭学習について、更なる工夫をし、今後もしっかりと進めて欲しい。 主体的に学習が進むように期待している。自己管理能力や自己肯定力も同時に培われると思う。				
生徒指導	本校の『いじめ防止基本方針』のもと、家庭、地域、関係機関等の協力を得ながら、教育相談的指導を充実させ、「いじめ」の未然防止、早期発見・早期対応に取り組む。 【指標】 いじめアンケートにおいて、「いじめはどんな理由があっても絶対許されない」と回答する生徒を100%とするとともに、あわせて「いじめ0」とする。 【結果】 1年次 94.7%(91.6)、2年次93.2%(82.0)、3年次83.4%(87.0) 全体92.0%(86.7) ※昨年度より上昇 いじめ認知件数11件(解消済)	A	「いじめ0」から「いじめ見逃し0」という観点でいじめ調査をしているため、認知件数は増加している。認知件数が増えることは、見逃し0へつながるため、よい傾向であることの認識をもっている。 引き続き「いじめ防止の取組」について継続的にちょっとした兆候やサインを見逃さない姿勢で指導を継続する。	A A A A A	A A A A A
評価者の意見等	人に対する思いやり、尊重することが一番大切。 「いじめ見逃し0」の取組は素晴らしい。 「いじめ見逃し0」を目指し、スクールカウンセラー派遣や、生徒が相談しやすい環境づくりをして欲しい。 どんな理由があっても絶対にいじめは許されないと回答しない生徒の気持ちを聞く機会があれば、早期対応につながると思う。				
進路指導	各年次に応じて、生徒一人一人に視点を当てたきめ細かな進路指導を行う。 【指標】 3年次生の進路決定率100% 【結果】(2月19日現在) 就職100%(87.0%、進学73.1%(82.7) 全体78%(83.7) 国公立受験者多数	A	年次枠を越えた情報交換の機会を充実させるとともに、活用しやすいデータ・資料の提供に努める。	A A A A A	A A A A A
評価者の意見等	学校の指導が結果として現れている。 学校の対応が素晴らしい。普通クラスでは1年次より充実させていただきたい。 学校の熱心な指導により、素晴らしい結果が現れている。				

【評価基準】
※自己評価の結果の内容の適切さ A: 十分適切な取組である B: 概ね適切な取組である C: 適切とはあまり言えない取組である D: 適切とは言えない取組である
※今後の改善方策の適切さ A: 十分な効果が期待できる B: ほぼ十分な効果が期待できる C: 効果があまり期待できない D: 全く効果は期待できず、改善を要する